地域おこし協力隊通信

地域おこし協力隊員
松藤 裕也
（移住支援担当）

こんにちは、地域おこし協力隊の松藤です。夏の猛烈な暑さも過ぎ去り、随分と過ごしやすい気候となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

「秩父の夏は暑い」と皆さんよく言われますが、東京との二拠点生活の中で夏場の暑さについて気づいた事があります。都心と秩父エリアを比べた時に、昼間はそこまで暑さに違いを感じないのですが、日が暮れてからはこちらの方がぐんと気温が下がり過ごしやすい夜を迎えられるのです。

一方都心では、夜がふけてもじっとりとした暑さが一晩中続きます。多分、アスファルトとコンクリートジャングル、そして、延々と熱風を吹き出し続ける無数のエアコン室外機のせいだと思いますが、とにかく冷房なしで寝ることは考えられません。数日間東京で仕事をしたのち日野沢の借家に帰ってきた夜、縁側の戸を網戸にして扇風機をまわしながら布団に横たわれば、心地の良い涼風が肌を撫でてくれて、そんなふとした時に自然への感謝をしみじみと感じます。

さて、僕の業務のひとつに「移住相談」というものがあります。これは、皆野町へ移住を検討している人が皆野での生活を体験するために利用できる住宅「来てみ～な」の利用者を対象に、移住に関する相談を受けるというものです。この夏も数件の移住相談依頼があり、面談を行いました。協力隊に着任してから約1年半の間に、多くの移住相談を実施してきました。男性、女性、若い人、定年退職した人、家族連れ、おひとり様・・・実に多様な境遇の方々と面談を通じてお話をしてきましたが、共通しているのは、「住まい」についての希望です。多くの皆さんが、戸建てで庭や畑付きの物件をお求めなのです。自然豊かな町に移住を考えるようなかたは、住環境・自然環境や食に対する意識の高いかたが多いので当然なのかもしれませんね。わざわざアパートやマンションに住もうと考えるかたの方が少数派なのかもしれません。しかし困ったことに、そんな方々にご紹介できる物件が町にありません。皆野の町中を見渡せば、多くの空き家が目につくのですが、どれも貸せる状態にはないのです（売買物件なら多少はありますが、多くの移住希望者が「まずは賃貸で」と考えているのが現状です）。理由は色々あるとは思いますが、やはりこれは非常にもったいないことではないでしょうか。現状では、移住面談の時にお相手のかたから「借家物件を紹介してほしい。見てみたい」と希望される度に、悔しい思いをしながらも「今はご紹介できる物件がありません・・・」という返答をせざるを得ません。ですので、これからは行政と町民が一体となって、移住者の方々を受け入れていく体制を少しずつ整えていくことが重要なのではないでしょうか。全国の過疎地域を見渡した時、移住者の受け入れに成功し、活気を取り戻している地域の共通点は「地域全体で移住者の受け入れ体制を整え、移住者の住みやすい環境を作っている」という点です。「この町に、隣人として、移住者を受け入れよう」というマインドを醸成してゆけば、きっとこの町に様々な人材が集まり活気あふれる町づくりができると思います。そしてそれは他ならぬ皆野町の未来のためになるのだ、と強く思います。僕自身、活気ある未来に貢献できるようこれからも活動を続けていきます。今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

ミナノベースの空き家の改修も少しずつですが進んでおります。（写真は錆びた屋根に防錆ペンキを塗っている様子）

今年も庭の畑に沢山の野菜ができました。採れたての野菜を食べるのは贅沢ですね！